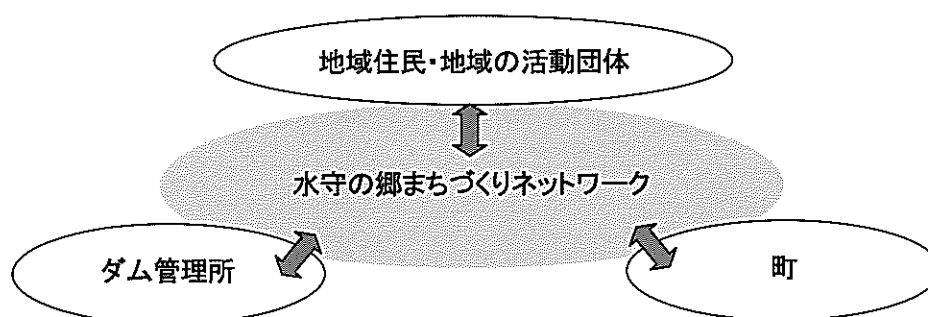


2.水守の郷ネット懇談会の歩み

2.1 「水守の郷まちづくりネットワーク」とは

～ネットは多様な団体のつなぎ手となります～

国土交通省東北地方整備局七ヶ宿ダム管理所が策定を進めている「七ヶ宿ダム水源地域ビジョン」の骨子検討とその過程で地域住民・関係地域づくり団体・町との情報共有、意見交換を円滑に進めていくための支援組織です。



2.2 組織及び事務所設置に至った経緯

七ヶ宿ダム管理所は、「七ヶ宿ダム水源地域ビジョン」を策定するにあたり、一人でも多くの地域住民の意見や提案をビジョンに反映させたいとの考え方から平成15年12月から町内各種団体長等の有志を中心にした水源地域の活性化を考える「座学」を開催してきました。そして、この「座学」を重ねていく中で、参加者からは地域づくりの担い手として期待されるメンバーが限定的であることや団体相互の連携が弱いことなどが問題として指摘され、多様な団体の隙間を埋める新たな体制と仕組みづくりが必要との認識を深めていきました。


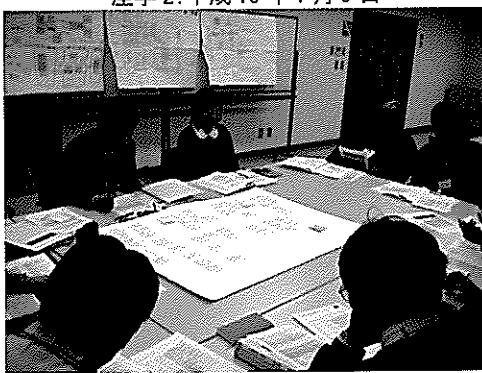

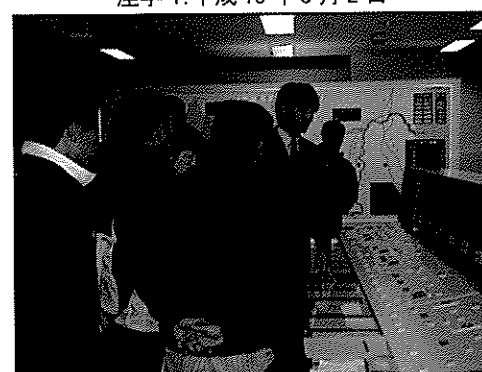
そして、ビジョン策定の各段階に積極的に地域住民が参画し、主体性を持って策定を進めていくための組織化を図っていくことが有志メンバーの間で合意され、住民と行政と下流住民等の多様な主体のつなぎ手となる新たな中間的組織として「水守の郷まちづくりネットワーク（略称：水守の郷ネット）」が設立されました。また、水源地域における主体形成の支援と新たな人材を確保するなど、町内外に周知活動を展開する窓口の明確化を図るために各種団体と連絡調整可能な専従スタッフが常駐する事務局の開設（平成16年5月25日）に至ったものです。





2.3 「水守の郷ネット」懇談会の歩み

「水守の郷ネット」では、平成15年12月8日の「座学」をはじめ、平成17年11月までに利水地域での出前懇談会を含めて延べ24回の懇談会を開催し、ビジョンのたたき台作成に精力的に取り組みました。

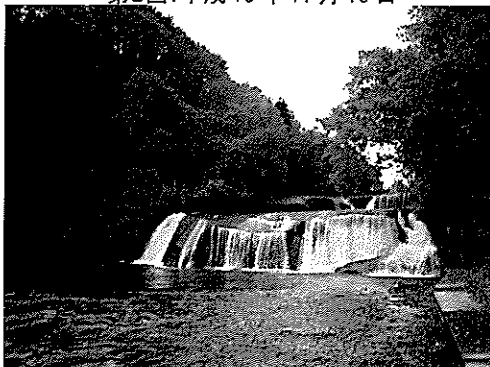

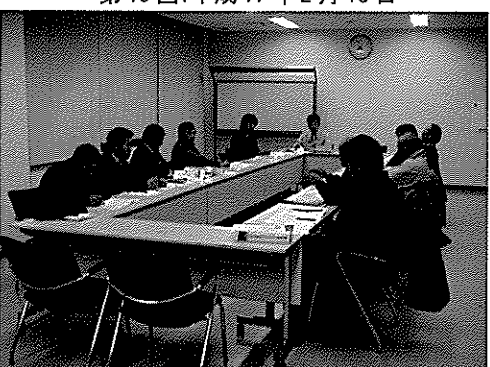

(詳細はニュースレターを参照ください)

年度	回数	日時	会場
平成15年度	座学：1	平成15年12月8日	七ヶ宿活性化センター
	座学：2	平成16年1月9日	七ヶ宿活性化センター
	座学：3	平成16年2月4日	七ヶ宿活性化センター
	座学：4	平成16年3月2日	七ヶ宿ダム管理事務所
	座学：5	平成16年3月23日	七ヶ宿町湯原地区 コミュニティセンター
平成16年度	懇談会：1	平成16年4月27日	七ヶ宿活性化センター
	懇談会：2	平成16年5月25日	七ヶ宿活性化センター
	懇談会：3	平成16年6月30日	七ヶ宿活性化センター
	懇談会：4	平成16年7月29日	七ヶ宿活性化センター
	懇談会：5	平成16年8月25日	七ヶ宿活性化センター
	懇談会：6	平成16年9月29日	七ヶ宿活性化センター
	懇談会：7	平成16年10月27日	七ヶ宿活性化センター
	懇談会：8	平成16年11月16日	七ヶ宿活性化センター
	懇談会：9	平成17年1月24日	七ヶ宿活性化センター
	懇談会：10	平成17年2月16日	七ヶ宿活性化センター
	懇談会：11	平成17年3月23日	七ヶ宿活性化センター
平成17年度	懇談会：12	平成17年4月27日	七ヶ宿活性化センター
	懇談会：13	平成17年5月30日	七ヶ宿活性化センター
	懇談会：14	平成17年6月22日	七ヶ宿活性化センター
	懇談会：15	平成17年7月26日	七ヶ宿活性化センター
	懇談会：16	平成17年8月23日	七ヶ宿活性化センター
	懇談会：17	平成17年9月27日	七ヶ宿活性化センター
	懇談会：18	平成17年10月27日	七ヶ宿活性化センター
	懇談会：19	平成17年11月29日	白石市役所 会議室

NO	懇談会の概要	参加者数
<p>座学 1:平成 15 年 12 月 8 日</p> 	<p>「水源地域の活性化を考える」</p> <p>本座学は、七ヶ宿ダム管理所が策定を進めている「七ヶ宿ダム水源地域ビジョン」に、地域の皆様の意見や提案を反映し、施策を協働で進めるための仕組みです。</p> <p>なお『座学』はグループ討議と全体会で構成し、和やかな中、皆様の思いが熱く語られ、そして、多くの活性化のヒントをいただくなど、今後につながる有意義な会となりました。</p>	<p>17 名</p>
<p>座学 2:平成 16 年 1 月 9 日</p> 	<p>「水源地域の活性化を考える」</p> <p>参加いただいた、小山さん、高橋さん、そして前回からの和田さんには、いろいろと貴重なご意見やご提言をいただきました。“かつてのイベントを呼び戻したい”という呟き、その拠点となるダム周辺環境の整備と維持管理、取り組み主体の連携の重要性などにも話しが広がり、活性化の課題に言及していくことができました。</p>	<p>10 名</p>
<p>座学 3:平成 16 年 2 月 4 日</p> 	<p>「水源地域の活性化を考える」</p> <p>ビジョンをどういう体制で、その事務局をどのように位置づけていくかなど、まちづくりの新たな担い手集団に着目した話し合いが中心となりました。</p> <p>この中で、“組織が多すぎて手が回らない”“選任の調整役がいると良い”“三セク事業も見直しの時期にきている”という体制についての課題が出されました。</p>	<p>13 名</p>
<p>座学 4:平成 16 年 3 月 2 日</p> 	<p>「水源地域の活性化を考える」</p> <p>ダムの監査廊を地域の活性化に活かせないかという話題が提供され、早速、みんなでダムの中を見学することになりました。</p> <p>この監査廊は、ゆったりしていて入り口付近はダム関連のギャラリーとしても活用されています。エレベーターでダムの直下近く（上の写真）まで下り、ダム管理施設のコントロールの仕組みなどについて学びました。</p>	<p>19 名</p>

NO	懇談会の概要	参加者数
<p>座学5:平成16年3月23日</p> 	<p>「そば打ち体験」</p> <p>今回は、「座学」の打ち上げとして「一足早い 山の学校」を開催しました。</p> <p>日頃、地域の中での交流が少ないということや自分たち自身も楽しむべきではないかという意見があり、まず自分たちが足元の水源地域の楽しみを実感し、魅力を再発見する機会にしていきたいということから企画したものです。</p>	<p>24名</p>
<p>第1回:平成16年4月27日</p> 	<p>「じっくり考え、地域に根づくビジョン素案に」</p> <p>昨年度の「座学」では、地域の方々が日頃考えていることについて意見交換し、施策アイデアの棚卸しをしました。</p> <p>「環境」「交流」「活動」をどう捉えるかという視点、地域づくり団体の活動をサポートする中間的な組織のあり方など、「水の郷ネット（仮称）」を立ち上げるところまで話しが進みました。</p>	<p>14名</p>
<p>第2回平成16年5月25日</p> 	<p>「愛称:水守の郷ネットが合意される」</p> <p>今回、会の名称を「水守の郷まちづくりネットワーク」としていくことが合意されました。</p> <p>この会は、七ヶ宿ダム管理所が策定を進めている「七ヶ宿ダム水源地域ビジョン」の素案検討とその過程で地域住民・関係地域づくり団体等との情報共有、意見交換を円滑に進めていくための支援組織とするものです。</p>	<p>14名</p>
<p>第3回平成16年6月30日</p> 	<p>「グループ討議で住民提案を掘り下げる」</p> <p>今回は、これまでの「座学」における議論の振り返りとこれからの具体的な取り組み方について話し合いました。</p> <p>振り返りでは、ややもすると発散しかけた議論を再確認する機会となり、共同作業を進めていくための体系的な議論ができたのではないかと思います。</p>	<p>15名</p>

NO	懇談会の概要	参加者数
<p>第4回平成 16 年 7 月 29 日</p> 	<p>「山」を守ることが「水」を守る」</p> <p>今回は、テーマ別に議論を掘り下げるために、「環境」と「交流」に絞って話し合いを行ないました。</p> <p>「環境」では、“まず、「農」と「森」がしっかりしないと意識が環境にむかない”という意見や、「交流」では、“日常的な交流に着目、単発に終わらない”という意見などが出されました。</p>	<p>14 名</p>
<p>第5回平成 16 年 8 月 25 日</p> 	<p>「今、やることは 100 年後につながる」</p> <p>今回は、「ダム周辺活用」と「地域再発見」に絞って話し合いを行ないました。ダム周辺活用では、自然環境の復元・再生に関わる整備や利活用に関心が高く、また、ビジターセンターとして入り口部の機能充実を図るなどの提案が出されました。</p> <p>まずは、地域の宝物を知ること、魅力への気づきが重要であることなどが話されました。</p>	<p>18 名</p>
<p>第6回平成 16 年 9 月 29 日</p> 	<p>「周知活動を進めて参加の輪を広げる」</p> <p>今回は、①住民提案をさらに掘り下げるためにはどうすべきか。②水源地域ビジョン策定の取組みを住民に伝えるにはどうすべきか。が主たる話題でした。</p> <p>委員会で全体像を確認してから次のステップに入る。住民の方々に関心をもってもらえるような具体の弾を描える。ネットの取組みを町民や下流地域住民に周知、PR することなどが出されました。</p>	<p>14 名</p>
<p>第7回:平成 16 年 10 月 27 日</p> 	<p>「きっかけとなることを自らやってみる」</p> <p>今回は、11 月に予定されている委員会に向けて、地域課題の振り返りや施策アイデアを持ち寄ることで話し合いを進めました。</p> <p>そのなかで、「森林認証」、「地域の食文化」、「街道交流」などの具体的なテーマが浮かび上がりました。</p>	<p>15 名</p>

NO	懇談会の概要	参加者数
<p>第8回:平成 16 年 11 月 16 日</p> 	<p>「下流の意見提案をもらおう」</p> <p>議事進行については、そもそも意見交換の時間が十分ではないという意見や、七ヶ宿町長の現状と課題の発表が重要な意味をもつこと、懇談会の課題認識はある程度共有できているので積極的に下流の委員の方から意見・提案をもらうこと、が今後の検討において重要ではないかという意見等が出されました。</p>	<p>12 名</p>
<p>第9回:平成 17 年 1 月 24 日</p> 	<p>「ライフスタイル改善や学習に働きかける」</p> <p>今回は、第 1 回委員会の意見を踏まえて、水源地域の目指すところ、施策方向性、具体策とアイデアについて話し合いを行いました。</p> <p>また、「水・環境」、「交流」、「歴史・生活文化」、「地場産業」、「ダム周辺活用」、「情報提供」、「推進体制」の 7 つのテーマへの補足・修正等作業を進めました。</p>	<p>13 名</p>
<p>第 10 回:平成 17 年 2 月 16 日</p> 	<p>「目標と施策の方向性をまとめる」</p> <p>水質日本一・水守の郷づくりを目指していくことに合意しました。</p> <p>これまで懇談会のなかで議論を積み重ねて、たたき台としての（案）を策定してきた経緯があり、第 2 回委員会資料は、できるだけ利水地域の皆さんの意見を積極的に引き出していきたいという話が出されました。</p>	<p>12 名</p>
<p>第 11 回:平成 17 年 3 月 23 日</p> 	<p>「動きだすために、何ができるか」</p> <p>ビジョンを推進する体制や仕組みについて、今後どうするかという点で最も多くの意見・提案が出されました。</p> <p>また、“動けるところから動く”、“やれるところから、やる”といった歩きながら考えていくことの重要性についての指摘もありました。</p>	<p>12 名</p>

NO	懇談会の概要	参加者数
<p>第12回:平成17年4月27日</p> 	<p>「柱立てをつめて、実現の仕組みを考える」</p> <p>懇談会の動き方については、様々な意見が出されましたがビジョンの柱立てと町との施策調整を含めた実現の仕組みづくり、具体的な工程の明確化が重要であるという意見に集約されます。</p>	<p>17名</p>
<p>第13回:平成17年5月30日</p> 	<p>「サービスの限界に備える」</p> <p>第2回懇談会では、山田委員長を講師に迎え、「持続可能な地域づくり、まちづくり」に関する講演会を行いました。</p> <p>山田先生は、特に、行政や企業が提供できるサービスの限界ふれ、隙間を埋めていくために、市民活動とコミュニティが両輪で取り組むことが重要であることを強調されました。</p>	<p>13名</p>
<p>第14回:平成17年6月22日</p> 	<p>「クラスター型の担い手組織をつくる」</p> <p>これまで提案された多くの施策アイデアの優先順位を考えていくための検討を行いました。</p> <p>これまでの施策アイデアは、ともすると総花的で施策の羅列になっているという指摘もあり、本当に実現したいものは何かをもう一度議論することにしました。</p>	<p>15名</p>
<p>第15回:平成17年7月26日</p> 	<p>「実現の体制と仕組みを計画に落とし込む」</p> <p>今後は水源地域活性化の4つモデルプロジェクトについて重点的に話し合い、それらの実現の体制と仕組みを明らかにし、行動計画に落とし込むことになりました。</p> <p>また、水源地域と利水地域が相互協力関係を強めていく観点から、出前懇談会の開催について検討することになりました。</p>	<p>10名</p>

NO	懇談会の概要	参加者数
<p>第16回:平成17年8月23日</p> 	<p>「木をみて森もみる水づくりの実現に向けて」</p> <p>今よりも一歩でも前に進めるには、「水のPR」、「七ヶ宿森林認証でモデル森林づくり」、「屋台で顔の見える水情報を発信」、「体験等コーディネーターの養成」、「マスコミの活用」、「七ヶ宿グリーンツーリズムの展開」等に力を入れていくことが重要との意見が出されました。</p>	<p>18名</p>
<p>第17回:平成17年9月27日</p> 	<p>「食を活かした仕事づくりの実現に向けて」</p> <p>今よりも一歩でも前に進めるためには、「山菜という素材への着目」、「山菜の保存や調理の知恵の活用」、「七ヶ宿ならではの名物料理の開発」、「長続きさせるための資源保護（山の監視）」、「モデル的な農村レストラン等の仕掛け」等に力を入れていくことが重要との意見が出されました。</p>	<p>16名</p>
<p>第18回:平成17年10月27日</p> 	<p>「水守の郷の仲間づくりの実現に向けて」</p> <p>今よりも一歩でも前に進めるためには、「仲間づくりのための発起人会の設置」、「水守の郷ネットの活動の地元住民への周知」、「利水地域を含めたインパクトのある告知」に力を入れ、個人・団体・企業・行政による協働の枠組みを作ることが重要との意見が出されました。</p>	<p>12名</p>
<p>第19回平成17年11月29日</p> 	<p>「水源地域と利水地域の連携に向けて」</p> <p>推進の体制や仕組みでは、水源地域の仲間がまとまることが大事であるが、利水地域の個人・団体・NPO・企業・行政等を含めた枠組みづくりを進め、その中で中間支援組織がサポート機能を発揮できるようにしていくことが重要であるとの意見が出されました。</p>	<p>22名</p>